



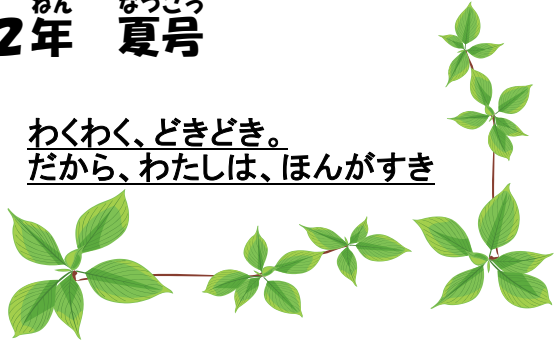
ほら、

# このほんおもしろかったよ

ねん なつごう  
2012年 夏号

読書活動推進標語

わくわく、どきどき。  
だから、わたしは、ほんがすき



## 『空のおくりもの』（えほん）

マイケル・キャッチプール／文

アリソン・ジェイ／絵 亀井よし子／訳

ブロンズ新社



くも ぬの  
雲をつむいで、布をおってくらしている  
しょうねん  
少年がいました。少年は、ひつようなぶん  
だけ、雲を糸にして布をつくります。雲はそら  
のおくりもの、とうたいながら。

ところがおうさまは、どんどん布をつくれと  
めいれいしました。すると、雲があめ  
ふらなくなり、たいへんなことに…。

## 『かくかくかくくん』（えほん）

新井洋行／作・絵 学研教育出版

かくくんは、ましかく。

ほんのかたちもましかく。

かくくんが、かくんかくんと、あそびに  
いくと、であうものも かくんかくんと  
ころがっていきます。

しかくいものは、かくかくと、また  
くっついて、ましかくに！



## 『トンネルをほる』（えほん）

ライアン・アン・ハンター／文

エドワード・ミラー／絵

ほるぷ出版

じめん <sup>した</sup> <sup>なに</sup>には何がある？アリヤ  
モグラの <sup>つく</sup>作ったトンネル？  
どうぶつ <sup>ひと</sup>動物だけじゃなく、人もトンネル  
をほります。

人がさいしょにほったトンネル  
は、<sup>みず</sup>水のためだったそうです。

まちは、<sup>くるま</sup> <sup>ちかてつ</sup>車や地下鉄、いろんなものがとおるトンネルがあります。

<sup>やま</sup>山のなか、<sup>かわ</sup>川の下や、<sup>うみ</sup> <sup>そこ</sup>海の底にも。どうやってほるんでしょうね？

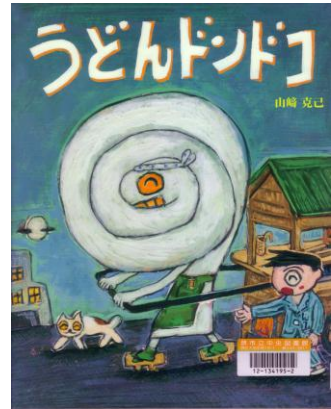


## 『うどんドンドコ』（えほん）

山崎克己／作 BL出版

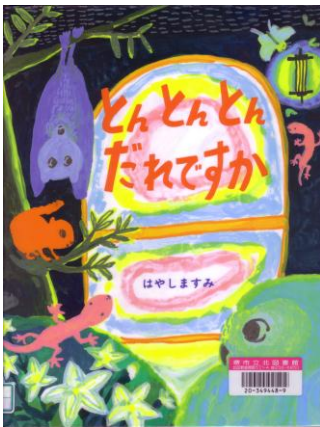
よるのまちで、はんじょうしている  
うどんやさんドンドコは、はたらきもの。  
どんなひとからのちゅうもんにもおうじ  
て、いせいよく、どんどん、うどんをつ  
くります。

ひょうばんのカレーうどんは、どんな  
あじだったのでしょうか。



## 『とんとんとん だれですか』（えほん）

はやしすみ／作 岩崎書店



なにかがおこりそうなくらいよる  
です。

こんやは、いったいどんなおきや  
くさんがたずねてくるのでしょうか。

とんとんとん…ドアにうつる、あ  
やしいかげ。そのしょうたいとは？

つぎつぎと、よそうもしないおき  
やくさんがたずねてきますよ。

## 『公平、いっぱつ逆転!』 (913)

福田隆浩／作 偕成社



公平<sup>こうへい</sup>は気が弱<sup>き</sup>くてめだつのがきらい。  
転校<sup>てんこう</sup>初日<sup>しょにち</sup>も「いじめっこがいたらいやだなあ」と、足<sup>あし</sup>取りは重<sup>おも</sup>かった。

ところが、学校<sup>がっこう</sup>に行くと、なぜか「公平<sup>からて</sup>は空手のたつじん」ということになっていて、そのうえ、いじめグループと対決<sup>たいけつ</sup>することになる。

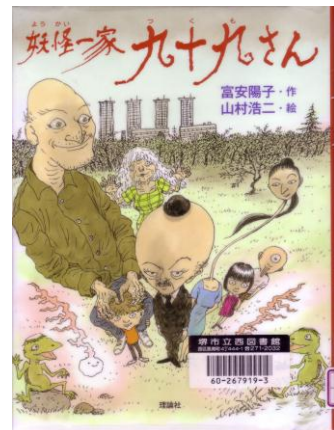
## 『妖怪一家九十九さん』 (913)

富安陽子／作 理論社

ヌラリヒョンこと九十九さんは、か  
しこくて考<sup>かんが</sup>えぶかい、妖怪<sup>おやだま</sup>の親玉。

九十九さん<sup>ひき</sup>率いる妖怪<sup>いっか</sup>一家は、七人<sup>ななにん</sup>  
なかよく団地<sup>だんち</sup>の地下<sup>ちか</sup>12階<sup>かい</sup>に住んでい  
ます。

ところが、ゆっくり<sup>やみよ</sup>闇夜<sup>さんぼ</sup>の散歩<sup>たの</sup>を楽  
しむ間<sup>ま</sup>もなく、つぎつぎと難題<sup>なんだい</sup>に立ち  
むかうことに。



## 『盗まれたおとぎ話 少年冒険家トム I』(933)

イアン・ベック／作 静山社

むかし、おとぎの国の森はずれに、やさしいお母さんと、7人兄弟が住んでいました。

ある冬、6人の兄さんたちは冒険の旅に出たまま、だれもかえってきません。

末っ子のトムも、兄さんたちをさがしに出発することにします。

お母さん、僕、きっと帰ってくるから！



## 『いのち運んだナゾの地下鉄』(913)

野田道子／作 毎日新聞社



「あわてんと、ゆっくりおりてください。地下鉄は、動いています！」という駅員さんの声。炎に追われた三人姉妹は、手をつないで階段をかけおります。

はたして電車はくるのでしょうか。1945年3月、大阪大空襲の夜に走った「救援電車」のおはなしです。

# 『見て、さわって、不思議を学ぶ！』

## 貝の図鑑&採集ガイド』(484)



池田等／著 実業之日本社

50年間、地元の海で貝の調査研究を  
続けてきた著者による、貝の図鑑です。

日本の海で見つかる貝のかたちや様子が、  
きれいな写真とイラストで、よくわかります。

採集や標本のつくりかたもっています。  
これをもって、ちかくの海辺に出かけ、貝を  
じっくり観察してみませんか？

# 『桜守のはなし』(627)

佐野藤右衛門／著 講談社

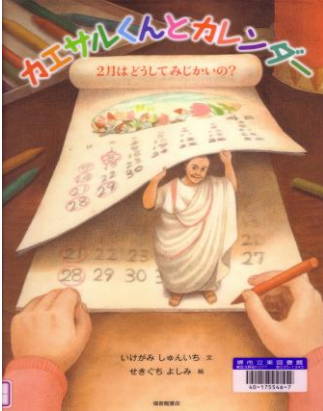
お花見がすんで、花が散ってからが、  
桜守の出番だそうです。「桜を見るん  
やったら、じぶんが好きな桜を1本だ  
け決めて、春だけやなく、夏の桜、秋の  
桜、冬の桜と1年とおして置いていって  
ほしいんです」と京都弁ではなす佐野  
さん。日本だけではなく、世界各地の  
桜を見守って、おいそがしです。



# 『カエサルくんとカレンダー』 (449)

いけがみしゅんいち／文

福音館書店



なぜ、2月はみじかいの？なぜ、30日にちと31日の月つきがあるの？

いったい、だれがきめたこと？

カレンダーにまつわる、いろいろなきもんに、カエサルくんが、わかりやすくこたえてくれます。

## ほかにもいろいろ

### ☆えほん☆

『くまくと6ぴきのしろいねずみ』

クリス・ウォーメル／作・絵

徳間書店

『東北んめえものうた』

長谷川義史／著

佼成出版社



なか  
『中をそうぞうしてみよ』

佐藤雅彦+ユーフラテス／著

福音館書店

☆よみもの☆

『ダメ犬ジャックは今日もごきげん』(933)

パトリシア・フィニー／作

ピーター・ベイリー／絵

徳間書店



『雨あがりのメデジン』(963)

アルフレッド・ゴメス=セルダ／作

鈴木出版



『とっておきのはいく』(913)

村上しいこ／作

PHP研究所

☆ちしきのほん☆

『つぎ、なにをよむ?』(019)

秋山朋恵／編

借成社

『動物大せっきん カエル』(487)

マーク・W・モフェット／著 ほるぷ出版

『身のまわりのふしぎサイエンス』(404)

岩崎書店

さかいしりつとしょかん  
堺市立図書館

へいせい ねん がつはっこう  
平成24年6月発行